

様式第2号（第8条関係）

会議の概要報告（案）																																											
1. 会議の名称	令和7年度 第1回 甲賀市青少年自然体験活動推進委員会																																										
2. 開催日時	令和8年3月10日(火) 18時30分～20時00分																																										
3. 開催場所	甲賀市甲南青少年活動センター 会議室																																										
4. 議題	・ 令和7年度甲賀市青少年自然体験活動振興計画に基づく事業実施状況及び 令和8年度甲賀市青少年自然体験活動事業の計画について																																										
5. 公開又は非公開の別	公開																																										
6. 出席者	《委員会委員》 <table><tr><td>日本ボーイスカウト滋賀連盟</td><td>副連盟長</td><td>吉久</td><td>義則</td></tr><tr><td>甲賀市青少年育成市民会議</td><td>顧問</td><td>前田</td><td>武広</td></tr><tr><td>ガールスカウト</td><td>団リーダー</td><td>宮城</td><td>善美</td></tr><tr><td>学校教育</td><td>甲南第一小学校校長</td><td>近藤</td><td>秀幸</td></tr><tr><td>幼稚園・保育園</td><td>保育幼稚園課</td><td>桂</td><td>直美</td></tr></table> 《事務局》 <table><tr><td>教育委員会事務局社会教育スポーツ課</td><td>課長</td><td>林</td><td>英明</td></tr><tr><td>教育委員会事務局社会教育スポーツ課</td><td>係長</td><td>小西</td><td>省吾</td></tr><tr><td>教育委員会事務局社会教育スポーツ課</td><td>係長</td><td>川上</td><td>真祐</td></tr><tr><td>甲南青少年研修センター 青少年自然活動指導員</td><td></td><td>竹田</td><td>秀美</td></tr><tr><td>教育委員会事務局社会教育スポーツ課</td><td>主査</td><td>木下</td><td>美奈保</td></tr></table>			日本ボーイスカウト滋賀連盟	副連盟長	吉久	義則	甲賀市青少年育成市民会議	顧問	前田	武広	ガールスカウト	団リーダー	宮城	善美	学校教育	甲南第一小学校校長	近藤	秀幸	幼稚園・保育園	保育幼稚園課	桂	直美	教育委員会事務局社会教育スポーツ課	課長	林	英明	教育委員会事務局社会教育スポーツ課	係長	小西	省吾	教育委員会事務局社会教育スポーツ課	係長	川上	真祐	甲南青少年研修センター 青少年自然活動指導員		竹田	秀美	教育委員会事務局社会教育スポーツ課	主査	木下	美奈保
日本ボーイスカウト滋賀連盟	副連盟長	吉久	義則																																								
甲賀市青少年育成市民会議	顧問	前田	武広																																								
ガールスカウト	団リーダー	宮城	善美																																								
学校教育	甲南第一小学校校長	近藤	秀幸																																								
幼稚園・保育園	保育幼稚園課	桂	直美																																								
教育委員会事務局社会教育スポーツ課	課長	林	英明																																								
教育委員会事務局社会教育スポーツ課	係長	小西	省吾																																								
教育委員会事務局社会教育スポーツ課	係長	川上	真祐																																								
甲南青少年研修センター 青少年自然活動指導員		竹田	秀美																																								
教育委員会事務局社会教育スポーツ課	主査	木下	美奈保																																								
7. 傍聴者	0人																																										
8. 会議資料	資料1 甲賀市青少年自然体験活動推進委員会委員名簿 資料2 甲賀市附属機関の会議の公開等に関する指針 資料3 甲賀市青少年自然体験活動推進委員会規則 資料4 甲賀市青少年自然体験活動振興計画 資料5 令和7年度青少年自然体験活動事業一覧表 (令和7年度実績及び令和8年度事業計画)																																										
9. 議事の結果概要	1. 令和7年度甲賀市青少年自然体験活動振興計画に基づく事業実施状況及び 令和8年度甲賀市青少年自然体験活動事業の計画について 事務局：資料により説明の後、意見交換 2. その他																																										
10. その他	－																																										

1. 「令和7年度甲賀市青少年自然体験活動振興計画に基づく事業実施状況及び

令和8年度甲賀市青少年自然体験活動事業の計画について」意見交換

委員長： ここからはご質問やご意見をいただく時間にしたいと思います。本日はこれに関する意見交換がこの時間の議題だと思いますので、予定の20時までご自由にご発言いただけたらよいかなと思います。もし必要ならコントロールはしますが、今までも上手にできていたと思いますので、みなさんご自由に発言いただいて、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局： 私から少し追加で話させていただくと、市で実施しているキャンプやネイチャースクールなどの事業は安全に実施しなければなりませんので、市の方でも安全委員会というものを通して実施しています。四万十川で起こした事故を教訓に、子ども達の命を守るというのが主にありますので、7月は月間としてありますが、それ以外に実施する事業についても安全の委員会を構えているということを補足させていただきます。

事務局： 今話されたことは、資料5の(1)の②の項目に記載させていただいています。

委員長： そうしたら口火を切る意味で質問させてもらいます。
例えば市役所に隣接するスポーツの森の整備計画について、ご存じの範囲で教えていただけると、(この委員会にも)関わってくるのかなと思います。

事務局： しっかり聞いた訳ではないですが、例えばスポーツの森というのは公民連携の行政と民間が共同した1つの大きい事業として、にぎわいがあるようなことをしたいというのが、市長の思いにもあると思うので、そういうことを考えていると思います。その中で聞いているのは、もともとプールがあった横のテニスコートのところに、多分遊具などができるような感じになるのではないかと聞きました。不確かな情報でもあるので、この場ではそういう構想があるということだけお伝えします。今のキャンプ施設については、何かするとかそういうことは聞いていません。あとは、スポーツの森とか周辺で言うと野球場とか、それはネーミングライツと言って、企業の名前を冠にして収入をもらう、そういうような形で名前が今ちょっと変わっていると思います。企業の冠をかぶって、そちらの広告もしてお金をいただいて、Win-Winでやっていこうという一つの官民連携の形なので。まだ具体性はありませんが、官民連携していく動きがあります。

副委員長： ずっとそのような話はでていますが、それは何年計画なのですか。

事務局： メインの整備は令和10年までの計画で、僕も断片的な記憶でしかないのですが、令和10年度あたりから、その周辺施設のキャンプ場を含めた、その辺の実施計画を実施していくようなことを聞いたような気がします。

副委員長： もともとある程度の構想というものがあって、最終的にはこういう形にしようというのがあると思うのですが。

事務局： その辺の話はまだ出てないと思います。令和10年度あたりからその辺の話をなされていくというような感じだと聞いています。

副委員長： まあ費用もかかる話でもありますけれど。

事務局： 現状では国スポとか障スポとかで初期整備はされました。管理棟がリニューアルされたことや、サッカーグラウンドの人工芝に張り替えをしたり、それで喜んでいただいています。そういった国スポ・障スポ関連で少し整備をしたということはあります。それ以外は公民連携で民間と何かやっていくという、それを模索している感じだと思います。民間からいろんなアドバイスを聞いて、行政では出しえない視点があると思うので、そういった視点を借りるなどがあると思います。

委員長： ここでそんな細かいことを議論することはないと思いますが、先ほどおっしゃった構想が私らにも見えたればと思います。そもそもこの会議は青少年活動を型にして、フィールドをどうしていくのかというのを考えるので、市政がわかるようにしていただきたい。

副委員長： キャンプはだんだん人気が出ているから、もう老朽化した施設より新しいものに反映していった方がよいのではないしょうか。

委員長： 市全体として自然体験活動ができるフィールドがどれだけできるのかとか。

副委員長： コロナの時はソロキャンプとかすごく流行りましたよね。私は土山ですが民間のキャンプ場も結構人が入っているようです。そういうような人を引っ張ってくることができれば。市の施設もありますが、結局老朽化しているので、みんな新しいところへ流れていくのだと思います。

事務局： 今言われるように民間も新たなキャンプ施設やらを創っていらっしゃいますよね。

副委員長： 今言っていたところもですが、結構キャンプ場は流行っているようです。栗東の方では県内で5か所経営しているようなところでも、募集をかけたらずぐ埋まっているみたいです。

委員長： そういうものだけが自然体験ではないと思いますが、子どもたちが関心を持つようなきっかけにはなると思います。こればかり話しをしてもだめですが、そのような関連で、昔は学校で飯盒炊さんなどがありました。今の活動について教えてほしいです。

- 事務局： これは先生から、今の課外授業みたいなものがどんなものがあるか話していただいたら。
- 委員： 学校では昔のように学校でキャンプをやることも、行事の縮小等でほとんどなくなっていきますね。今、子どもたちが学校で自然体験するようなものは、今言っていた4年生のやまのこ、5年生のうみのこがありますね。この2つは県内全体でやっているの、市内の子ども達も行っています。今年は私もやまのこを引率しましたが、子どもたちの喜びようがすごかったです。山の中をかけあがって、いろんなこと教えてもらったり、のこぎりの使い方を教えてもらったりしている時は夢中になって、いきいきして帰ってきました。体験活動が減っている中で、大事な活動なんだと感じました。だからといって、学校でもっと活動を増やせるのかというと、正直難しいです。安心安全を1番大事にしていこうと思ったら、教員の手だけではなかなか難しくなっています。今甲賀市ではコミュニティスクールなど、学校に関わるボランティアに来てもらっているの、それはすごくありがたいです。どの学校でもボランティアの支援も借りながら、少しでも子どもらの体験が広がっていったらいいなあと思います。
- 事務局： 例えば学校独自で、僕は貴生川でしたが、貴生川だと裏に山とかがありますから、全校登山とか学校独自のものがありますよね。いまだに。
- 委員： やっぱり学校の環境を活かした活動というものはあります。
- 事務局： 今年でいうと、甲南第三小学校に自然体験指導員の派遣をさせていただきました。小学校から派遣依頼をいただいて行かせてもらいました。ちらほらそういうがあるので、またそういった形で個別にでも利用いただけたらいいかなと思います。
- 事務局： 例えば教頭会とか校長会などでもそういったことを伝えて、コーディネーターを使った自然体験活動を検討してもらえたらいいかもしれません。
- 委員： 私はCSのボランティアで呼んでもらって、コーディネーターもしていますが、前は自然クラブで、ガールスカウトでやっている空き缶でパンを焼いたりしていました。こないだ校長先生と話していると、クラブ活動も先生の管轄ですが、先生は違うことをしてもらって、そこを全部CSのボランティアさんに任せて、そこで自然体験もできたらいいと話していました。
- 事務局： 今みたいな話を聞くと、先生方の負担軽減にもつながるし、地域で学校に協力したいと思ってはるような人材の利活用にも繋がってよい話だと思います。
- 委員： 自由にお手伝いはできませんが、クラブ活動やったらできますよね。話をしていたのは、学校の先生にはクラブ活動のときに違うことをしてもらい、そこにはCSのボランティアさんに入ってもらうのがいいんじゃないかなというような事を言っていました。

事務局： 社会教育スポーツ課の中にはC Sと一緒に地域学校協働本部の話もあります。また今日いらっしゃる青少年育成市民会議とも、青少年の健全育成の取組と一緒にしていけないかと、ちょうど調整しているところなので、そういうところで何か一緒にできるという思いもあります。

委員長： そこが一緒になるのはいいなと思いますが、それぞれの活動というのはそれぞれ違うこともあると思うので、ただもっともっと一緒になってもいいかもしれませんね。例えばC Sと学区民会議というのは、ひょっとしたら重なっている部分もあるかもしれません。その辺のことで、先ほどの説明の中であった合同研修会について、確かにいいと思いますが、他に集約いただいている団体は、自然体験活動だけではないですよね。いろんな思いを持っていると思うので、来年もそのテーマでよいのか、その辺はどうだろうかと思ったのですが。

事務局： メインとしては青少年健全育成に係る団体の学習機会の場となっています。それを青少年活動セミナーとして私たちの取組を広い方に副次的に知ってもらうような形をとっています。来年度は、ライフジャケットの取組やライフジャケットの重要性だけでは、少し偏りすぎているかなというところで、熱中症の話題もあったら、P T Aも青少年育成市民会議も、もちろんスポーツ少年団も関わってくるかなということで、そういったニュアンスを入れながら、偏りがないような工夫はさせていただいています。私たちのこういった取組というものは、続けてはいるものの、まだまだ認知度が低いところがあるので、まずは取組を伝えていく機会を増やすように現在はこういう形でさせていただいています。

事務局： 人権学習と同じようなことで、学習をずっと続けていくことで理解も深まると思うので、そういうのと同じようにしていけないなと思います。

委員長： ガールさんと事務局に聞きたいのですが、ボーイスカウトでいうと、キャンプに関しての安全についてで、最近になって出てきたのがクマのことで。イノシシは大丈夫だと思いますが、こないだも信楽で出たなど、野生生物の問題が最近出てきたのがひとつあります。もうひとつは山火事の問題です。こちらは昔からあった問題ですが、例えばボーイスカウトではクマに関しての情報を発信したり、山火事については裸火を禁止する的なことをしています。裸火はそれぞれの判断で任せるということもあったり、やめといてなというような動きが出ている状況です。まずキャンプをしているガールさん、市はそこまで対応していないと思いますが、そういう情報の発信とか現状というのを教えてほしいです。

委員： 裸火は絶対しません。だいたいキャンプ場を使いますので、そこらへんは安全にしています。あと、必ずキャンプをする場合は、スポーツの森であってもどこであっても、1年間あったら状況が変わってるので、最低2回は行ってどこが危険とか、確認します。キャンププログラムの他に、安全計画書というもので、たくさんの配慮を書いています。子ども達が来たら、どこが安全でどこが危険なのか、それに対してどのような対処をするのかという冊子を作ります。それは毎回キャンプをする度にします。それとその中で

裸火というのはできないですし、スポーツの森のキャンプ場なんかは使えない状態になっていますよね。あと、今の子って和式でトイレをできないんですよ。古い方の西側のキャンプ場は使いたくても使えないんです。子どもらがトイレを使えないので。それとクマの情報というのは、すごく信楽さんが敏感になっていまして、鈴をつけるとかはありますが、スポーツの森は山が切れているのでクマは来ないと聞いています。あとはキャンプ場ってどこがありますか。

事務局： 公共施設ですよ。高間みずべ公園とエコバレイとスポーツの森とかがありますね。

委員： 青土ダムは私たちのキャラバンの三角テントは大きすぎて入れないんです。だからスポーツの森とかはすごく自然もあって、大きいテントでも小さいテントでも何でもできるのですが、下がコンクリートなのでエコバレイとかそういうところではキャンプできないんです。

委員長： 昔あった安全の会議で、最初のクマの話題のときに、県はこっからここはいませんと言っていて、鈴鹿山脈にクマが出たという情報があっても、その部分はクマがいない地域ですと言っていたけれど本当は出ているようです。そういった古い情報で判断するとだめなのかなと思います。今のところは、情報はないかもしれないけれど、そこはもう出ないと安心してはだめですよ。例えば市としては、こういった情報を掴んでいたか教えてほしいです。

事務局： クマ情報を司っているのは獣害対策室ですが、それも住民からの通報によって知りうるというのがほとんどです。今さっき言われたように信楽では敏感になっていますし、クマが出たときに鈴や、スプレーを購入して対策するなどはしていると思います。

委員： そういうスプレーはテントの周りにまいたりします。

事務局： そういう対策はされていると思うけども、最近はその辺の情報は入ってきていないです。入ったとしたらすぐに啓発をするというのがスタイルになっています。僕も山に行くのですが、本当にほばいないのではないかなと思います。信楽がというのは奈良の方から来ているクマだと思います。鈴鹿山系やと高畑とかの方はいると思うけど、甲賀の方はいないのではないかなと思います。

副委員長： 鹿とか猪はある程度そこから動かないけど、(クマは) なわばりがいないからそこから動くみたいです。大津での目撃情報はよく聞くし、今までも多賀とか大垣とか北の方は滋賀県内でも多いみたいですね。

事務局： 山火事については、ほとんどは林野火災で、野焼きをされているのが原因のほとんどです。原因としてあげられるのはそればかりだと思います。1件だけ原因が分からなかったものもあって、登山者がやったんじゃないかと言われているものもありました。

副委員長： 一山超えた上で煙があがっているみたいな感じですか。

事務局： そんな感じです。それはやっぱり山に何らかの形で入る人が遭難されたとか、わからないですが、そういうことかなと認識はしていますが、しっかり裏が取れているわけではないです。

委員長： 昔だとキャンプはみんな夏しかしなかったけれど、今は冬場や春先でもされますね。

副委員長： 春先と絶対に燃えやすいし、火が見えないですし、乾燥もしていますから。そして、火が出ると風が出てくるし。山は絶対そうです。よくあるのは風がないからと火をつけたら、風が出てくるということがあります。

委員長： 人から聞いた話ですが、山火事の比率は減っているけど、規模が大きくなっていると。

事務局： 今年は特にですが、気候も影響していると思います。天気がずっと乾燥していて、雨がなかったので、発火する材料になっていると思います。湿気があれば、そんなこともないと思いますが、そういうのも影響しているのではないのでしょうか。
また、先ほどのスポーツの森の話をされましたが、あのような話で今後の計画的なことで聞きたいことがあれば、今まで事務局には入っていませんが、都市計画課とか建設管理課に来ていただいて、こういう話題を教えてほしいと、委員会から招へい依頼のようにしてもらえるといいと思います。例えば、次回にそういう話題をする際に、そこに関心があるということであれば、そういう形で呼べると思います。

委員長： ひとつ事務的な情報はそのように聞けるとよいですが、それと合わせて、トップがどう思っているのか、どう言っているのかが聞きたいです。

副委員長： 最終的な構想はどうかということを、例えばいつできるのかまではいいですが、最終的にどういう風に考えてるかっていうところを聞きたいです。

委員長： どこかで言われているかもしれませんが。例えば議会でそれが出て、市長と教育長がはっきり答えてくださったらよいですが。

事務局： それも一つの手だと思います。例えば委員会で議員さんにこういう風に聞いてほしいと言うのも、それは市民の知る権利を表に出すということになるから僕はいいと思います。

委員長： 無理して言ってほしい訳ではないけど、そういった思いはもってはあると思うので聞きたいです。

副委員長： どこまでをどういう風にやいつまでに、とかでなくて、最終的にどういう風なことを考えてはるかということが聞きたいです。

事務局： 何を伝えるにしても、トップだけの一存では難しいと思います。部長や計画などもあるので、そういったことに併せて、例えば自分もこういう思いでいるというような形で発言されると思います。何もないところでそういったことは言えないと思います。

委員長： 細かいことですが、B&Gでライフジャケットやサップでやっているというのは、プールでしているのですか。

事務局： プールで実施しています。B&Gでライフジャケットやサップの貸出もしています。

副委員長： プールだと安全ですね。

事務局： 体験もしますが、最後にはプールの真ん中に端から端まででサップを並べて、浮島みたいな上を歩いてもらったりします。バランスをとって歩くのは難しいですが、結構子ども達は楽しんでやってくれています。

副委員長： プールは熱中症という感覚で、みんな段々廃止になっていますし、結局水遊びする時は親とどこかへ行くことになります。私は鮎河ですが、うぐい川とか結構来られています。去年は暑かったから大変なことになっていました。うぐい川は一昨年か去年の3月に川底が荒れているから県の方で整地してもらい、水深がこの状態（低い）です。なので子どもだけじゃなくて、ドッグランみたいになっていて、みんな普通に犬を連れてきます。そして犬の遊び場が変わっています。子ども達は遊ぶところがないから、野洲川に行っている状況です。何年か前にライフジャケットの森重さんに来てもらってから、やっぱりうぐい川に来られた方も、今まではライフジャケットをそんなに着てなかったと思いますが、それ以降は、周りがしているからというものもあるかもしれませんが、結構、大半の方が着ておられます。次からはもうそういった看板を立てようかと言っています。そういうところから普及されたかなとは思いますが。ただ、ちょっと人間の行き場所が変わっていますね。コロナの時から海に行くことを控えてくださいとなっていたから、身近なところで、お金もいらないところなので。

委員長： 川遊びというところで、個人的にはあまり情報は持ってないのですが。

事務局： 川遊びで言うと、昔は貴生川の子ども会の役員をしていたので、黒滝で魚つかみ大会をしたり、区をあげてバス3台で乗り合わせて行ったりしていました。それもコロナ禍で止まっていたけど、大人は子どもの喜ぶ声を聞きたいし、子どもも楽しみが半減しているということで、昨年から復活してやっています。

委員長： 先ほど田村川の調査と言っていたのは川には入ったのですか。

事務局： 入りました。田村神社のところから入らせてもらいました。

委員長： あそこは結構深いところがありますよね。

事務局： その辺は事前調査で分かっている、紐みたいなやつを通しましたよね。

事務局： 川の観察会を久しぶりにするというので、私たちも準備万端で臨みたいと思ひまして、参加者が市内の方はたまにいらっしゃる方だったんですけど、日本自然保護協会が募集しておられたひとり親家庭の、自然体験があまりできない方が参加されました。そうなってくると、親1人に子ども3人とか、そもそも外に行きにくい方が集まってこられたり、やっぱり子どもたちから目を離さないように、ボランティアの方に集まっていたいてバディを組んで、目を離さないようにしました。なおかつ順番に範囲を決めて入るようにしました。生き物を探すのもそうなのですが、川で流されたときに安全に流されていくようにというのも体験していただきました。8月は雨が少なく水位がなかなか流れるくらいではなかったかもしれませんが、やっぱりなかなか慣れない方が多かったので初めての体験をしてもらった形です。

委員長： うちもボーイスカウトであそこでプログラムをしてもらっています。文句ではないけれど、貸出しのライフジャケットを着けてやった時に、見守る人が子ども達の見分けがつかなかったことがあります。みんな同じで、誰が誰か分からなかったようです。それがあって、本当は自分のものをもって、なぜかという、やっぱり借りてきたものを当日配っていると着用がうまくできない人が多かったことがありました。教える方も分からない人がいらっしゃいました。

副委員長： 着たことないという子が大半ですよ。

事務局： 今年から始めた補助金は結構盛況で、いろいろな場所でアナウンスして下さって、広報にも取り上げてもらいました。その後も市内の店舗などにも、こういう補助金をやっているからと伝えたりしました。実際にその店舗で購入されている方もいらっしゃったし、一家で全員購入されて申請する方もいらっしゃいました。

- 事務局： 市内でライフジャケットを取り扱っている店舗に営業させてもらいました。
- 事務局： だいたいライフジャケットは8,000円くらいを想定していて、補助金額はその半分で4,000円を上限としていました。
- 事務局： だいたい（平均の補助額は）2,000円くらいでした。
事務局としてこの自然体験活動ということでは、今まではキャンプで今後もキャンプは継続していきますが、最近は水辺の安全というところも力を入れてます。体育教師の方にもお世話になって、ライフジャケットの取組を広げていただいているので、是非今度は保育園でも、何か連携してできるようなことがあればお願いしたいなと思います。
- 委員： 園にもライフジャケットの借用や補助金のチラシを配布させてもらいました。何か連携できることがありましたらお願いします。
- 事務局： またよろしくお願いします。保育園の方には、うちの自然体験活動指導委員が何件か行かせていただいています。
- 事務局： 今年はこのつつす園に行かせてもらいました。
- 事務局： 補助金については小学校にはチラシを配らせていただきましたし、保育園でも保護者さんにメールなどで情報配信をしてもいただきました。申請者の方に補助金をどこで知りましたかと聞いた際は、小学校と保育園と答える方がほとんどでした。
- 事務局： 引き続き来年もそういう形でご協力お願いします。
- 委員： 小学校は教師に体験をしていただいて、ライフジャケットを借りて各学校へ回しながら、夏休み前には、高学年の子ども達は必ず1回は着るようにしています。
- 事務局： ありがとうございます。子どもの記憶にいかにもすりこむというか、体験してもらうことが大事だと思います。体験したことは大人になっても忘れないですし、そういうことに繋がりますよね。
- 事務局： 今の子って泳げない子が多くなっているんですよね。僕らの時よりも授業の時間数が全然違いますもんね。
- 委員長： 時間までもうあと少し、もし何かありましたら発言ください。そろそろ締め切りしたいと思います。

委 員： 夏のキャンプのやり方というのをどうされているのか知りたいです。暑すぎて、私達も夏は6月に訓練キャンプというものを、8月の夏休みにキャンプをしていたのですが、暑すぎてキャンプができない状況になっています。でも夏休みにキャンプはやりたいと思うのでどのようにされているか知りたいです。

事務局： 今年の状況で言いますと、事前研修で7月13日にルネス学園に場所を借りて、これはライフジャケットの取組を前の甲賀B&Gでできるので。この時は防災のプログラムを入れながら、キャンプの準備ということで顔合わせを含めたことをしています。今年に関しては本番のキャンプは7月24～26日で実施しました。ちなみに去年は8月の8・9・10日でしたが、こちらはもう暑すぎて難しいとなりました。

委 員： 私達は秋にずっと行っていたのですが、国スポで秋ができず、11月に行ったけど寒すぎました。

事務局： 夏と逆ですね。7月24～26日でも8月よりはマシでしたけど、やっぱり暑かったです。熱中症対策ということで、フィールドはこの甲南青少年研修センターでしますの

委 員： 熱中症のことだけでなく、キャンプ自体を暑い時はどういうプログラムをするのかを聞きたいです。

事務局： プログラム中は今まででしたら、ずっと外で活動をしていたのですが、暑さで野外調理もできないこともあるのでその場合は室内で調理をしています。合宿みたいになっています。あとは外に30分出たら必ず中に入るなどの対策をしています。

委 員： ここはテントが張れないので、スポ森だといいのですが。今は宿泊する施設が全部使えないので、結局テントになります。ここでも宿泊は何回もさせてもらっていますが、他に何かできるようなことないかなと考えています。

事務局： どうしても時期のことについては、こちらも検討材料になります。2泊3日でやるということになると、小学生の夏休みの入ってすぐというところで開催となります。(夏に入って)遅いよりは早い方が暑くないだろうということで、この開催時期になっていますが、それでも暑すぎると思います。

委 員： 暑いよりは寒い方がよいですよ。服を着こんだり、火にあたればいいです。

副委員長： 熱中症のこと気にしないでいいですね。

事務局： 私が冒頭に話をしました、市の安全の委員会でも議題になるのが、今の熱中症やそれから雷です。雷がなったらどこが避難場所になるのかなどは常に確認させていただいています。

委 員： ガールスカウトでも雷が落ちたらどこに避難しようとか安全管理はあります。

事務局： クマ、シカなども含めた野外動物に対することもそうですが、こういう時はこうする、あとは温度も何度以上やったら室内に入るなどの基準を持っています。ただ、指導員とも話をしてできる限り、外で体験はさせてあげたいというところがあります。うちどもはこのフィールドしかないので、室内でクールダウンできるというところをうまく使いながらやっています。他のフィールドを使うというところは、安全対策も含めて、まだ踏み切れてないという状況ではあります。

事務局： 選択肢としては狭まっているということはあります。

委員長： まだ聞きたいこともあるかもしれませんが、いったんここで、この議題についての意見交換を終わりたいと思います。これからも時間をかけて議論させていただけたらありがたいと思います。この議事を終えて進行を一旦事務局へお返しします。

2. その他

事務局： 委員長、みなさまありがとうございました。
それでは次第6のその他に移らせていただきます。委員のみなさまからその他にご意見やご提案があれば発言をお願いします。

委員長： いろいろとお話いただいて、あるいは事務局と事前に少しお話させていただいた中で、実は事故から来年度で19年で、次は20年を迎える年になります。当時は担当部署にいたので、振り返ってみると安全対策のマニュアルは作成したのですが、それから1度も手を加えずに今日まで来ているということで、何とかしないといけないかなと思っていました。特に見直しということだけではなくて、もう少し考えていきたいなあという風に思います。当時は、慌てて事故の対応ということで作った部分もあって、中味はこれでかまわないとしても、ちょっと不足している部分があるのかなと感じています。1番大事なのは誰にお伝えるかという部分ではありますが、ただ誰に対して分かりやすいような、役に立つようなものにしたらいいのか、というのはもう少し状況が分からないと、というところがあります。その辺の調査などももう少し細かい話のできる、作業チームというような形ができたらと思っているので、この場で提案をさせていただき、どのようなやり方をするのかもまだはっきりわからないですが、とにかく子ども達の現状、子ども達が体験できる環境の現状をそういったところを掴めたらいいなと思っています。まだ案なのですが、そういったことで進めていただくご了承いただいて、具体的なやり方としては規則を見てもらえればと思います。

事務局： 資料3の第4条にあります。

委員長： 専門部会を置くという風にされていますので、これに基づいたものにする方がよいのか、任意の形でする方がよいのか少し迷っているところではあります。ただ何をするにしても最終この委員会には報告して、共有していきたいと思っています。今はこういう意向を報告しておくということで、具体的なことは事務局と相談します。みなさんも関わっていただけるのであれば関わっていただけたらと思います。よろしくお願いします。

事務局： その他に何かございますでしょうか。
なければ閉会にあたらせていただきます。